

鶴岡首席交渉官によるぶら下がり記者会見の概要

日時：平成27年5月13日（水）8：00～8：10

場所：内閣府本府

（記者）

今回の会合の意義、目的について説明を。

（鶴岡首席）

今回の会合でTPP交渉の一番重要な政治的課題の解決につながる整理をするというのが目的。今回は、グアムで10日以上時間をかけてこれまでに残っている懸案についての非常に精力的な交渉を行うことが予定されており、その結果、閣僚に政治的な決断をしてもらえるような準備を整えるというのが目的。まだ、二国間の交渉、12か国で作り上げるルールの問題、その両面において、課題は残されているので、相当に野心的な目標と言わざるを得ないが、時間がすでに制約されて、非常に残された時間は限られている。その中で、この首席会合を通じてできるだけ成果を出して、最後は閣僚にまとめていただくのが目的。ただし、環境が整わないところで閣僚会合が開催されることは非現実的な想定だと思うので、首席の間で、本当に閣僚に判断していただけるだけの素地を作れるかが今回の大きな課題。アメリカでは、貿易権限法案が、現在、議会で審議の対象となっているが、このTPAが成立をしていない場合に、閣僚の間で政治的な決断が可能かどうかということについては、まだ不透明な部分が残っている。アメリカ議会の審議は同時並行で進んでいるので、グアムでの会合の過程の中でも、アメリカ議会の動向に注目しながら、我々としても精力的に交渉をするという状況ではないかと思う。

（記者）

TPAに関して、上院で審議入りに必要な動議が否決されたというニュースが入ってきたが、今回の首席会合、閣僚会合に与える影響についてどう考えるか。

（鶴岡首席）

アメリカの議会がTPAを採択して、大統領府に対する貿易権限を付与することは、TPPをまとめるうえで不可欠な条件だと思っている。もし、米議会でのTPA審議が進む見通しが無いということが確定的なことになると、各国のTPP交渉に臨む姿勢に積極的にさせることにはならないだろうと思わざるを得ない。日米両国がTPP域内の全体経済8割を占めるまさに二大経済国

家であるので、日米が主導してTPPを実現するという事は、先般の総理訪米の際にも、オバマ大統領と安倍総理の間で見解が一致したところであるので、できる限り、日本としても交渉をまとめるべく努力をしたいと思っているが、その中で、米議会が大統領府に対する貿易権限を付与しないということであれば、これは、交渉をまとめる為の必須の条件が整わないということになり、その中で交渉を進展させるのはなかなか難しいだろうと思う。

(記者)

残された時間が限られていると言ったが、具体的なリミットはいつ頃を考えるか。

(鶴岡首席)

まだ時間的な見通しでいつが最終的な期限なのかということを確認的に申し上げられる状況にない。日々期限が来ているという意識で交渉をしないことには、中々残されている課題、いずれも容易なものではないので、解決につながらないと思う。今の段階では、着実に一つ一つの課題を消化し、そして、全体の交渉を進めることに集中することだと思う。日程のことを議論しても、交渉自体が進展することはないので、日程は、交渉が進むことによってつくと考えながら交渉していきたいと思っている。

(記者)

TPAが通ってない中では、グアム会合中に閣僚会合をセットするのは難しいという見通しか。

(鶴岡首席)

米議会の動きも出たばかりであるし、これまで、少なくとも、上院下院の担当委員会の採決は済んでいるわけであり、これが本会議でどう扱われるかが課題となっており、それにまだ困難が伴っているという状況だと思う。推進する方々の意見では、何としてもTPAを実現した上でTPPをまとめるというのも、米議会の声としてあると聞いている。したがって、先程申し上げたとおり、閣僚会合を開催して、最終的な取りまとめをすることを目標としていくことについては、現時点で何らの変更もないと申し上げたい。我々に課されている任務は、そういった条件が整うことを想定した上で、可能な限り交渉を前進させておいて、条件が整ったところで閣僚に集まっていただいて、一番重要な政治的決定をしていただくと、そのためのお膳立てが我々の任務であるので、それは、首席の間でまさに精力的に時間をかけても今回はぜひ実現したいと思っている。最終的に閣僚会合が開催されるかは閣僚のご判断になるので、その時点に

至る過程で、私も甘利大臣のご指示を仰ぎながら我が国としての対応を決めて
いきたいと思う。

(以上)